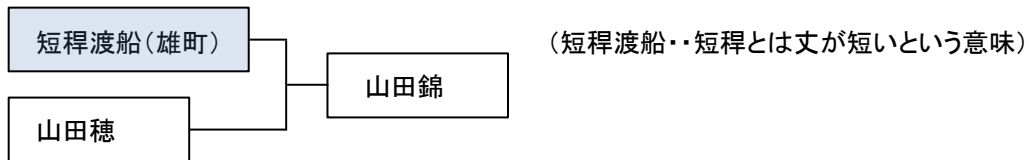
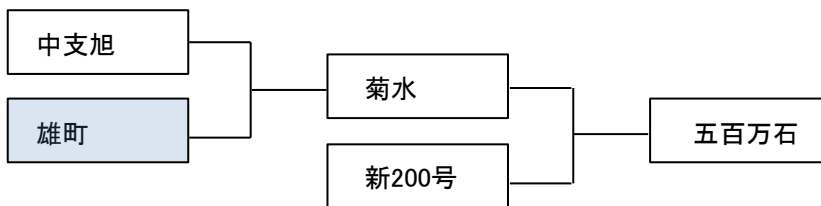


雄 町

- ・備前国(岡山県)高島村雄町の岸本甚造氏が伯耆国で発見1866年(慶応2年)に選抜改良された
- ・現在栽培されている「雄町」は1921年(大正11年)岡山県農業試験場で純系分離されたものがもと
- ・赤磐雄町、備前雄町、船木雄町、比婆雄町などがあり、各地で独自の系統になったものがある
- ・主たる産地は岡山県だが、広島県、香川県、福岡県、新潟県、大阪府など広く栽培されている
- ・生産量は「山田錦」の10分の1程度と少なく、近年人気が高まっていて比較的入手難となっている
- ・軟質米で心白が大きいいため高精白が難しく、杜氏は「雄町」が使いこなせたら一人前と言われる
- ・「山田錦」の親※にあたり、また移民と共にアメリカに渡って「カリフォルニア米」の先祖となった



- ・「五百万石」も「雄町」の子孫※にあたるため、酒造好適米のほぼ8割が雄町由来と言われている



○その他「雄町」由来のおもな酒米

愛山 秋田酒こまち 石川酒30号 神の舞 吟のさと 吟吹雪 金紋錦 こいおまち
越淡麗 さがの華 千本錦 龍の落とし子 玉栄 華想い 兵庫夢錦 豊盃 若水 兵庫錦

○「渡船」について

- ・山田錦の親にあたる「渡船(短稈渡船)」は、もともと福岡県産の「雄町」と推定されている
- ・明治28年、滋賀県の試験場が各地の「雄町」を集めた際、ひとつが塩水撰中に来歴不明となった
- ・消去法で福岡から船で渡って来た「雄町」と推定されたことから仮に「渡船」と命名され定着した
- ・滋賀県は純系淘汰により10年間に6種類の「渡船」を固定し、「2号」「4号」「6号」が残ったとされる
- ・一方兵庫県試験場が「山田錦」開発のため大正7年頃取り寄せた「短稈渡船」はどれなのか不明
- ・特性から、滋賀県の「渡船2号」が兵庫県でいう「短稈渡船」だろうと推定されている
- ・近年「渡船」を使う蔵が増えて来ているが、多くは長稈種の「渡船6号」で、「2号」は少ない

(おもな参考資料: 兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告より、酒米ハンドブックより)